

高知工科大学と地域教育の連携：2011 検証と総括

長崎 政浩

(受領日：2012年5月7日)

高知工科大学 共通教育教室
〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

E-mail:nagasaki.masahiro@kochi-tech.ac.jp

要約：本年度実施した、地域の初等中等教育との連携教育の取組を報告し、その検証と総括を行う。大学と学校との協働が実現しつつあるが、これまでの連携教育の取組の包括的な検証が必要な時期にきている。大学と地域教育との連携の新しい方向性を探究していくことが今後の課題となる。

はじめに

本学は、開学（1997）当初から地域教育支援を重要な地域貢献活動の一つと位置づけてきた¹⁾。本稿では、2011年度の地域教育との連携の活動を振り返り、その検証と総括を行う。

1. 高知工科大学と地域教育との連携

本学は、高知県教育委員会と「高知工科大学と高知県教育委員会との連携教育に関する覚え書き」（平成16年11月）により、次のような連携教育活動を進めてきた²⁾：

- 1 児童生徒の学習指導に関する事項
- 2 教育研究に関する事項
- 3 教員研修に関する事項
- 4 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- 5 その他両者が必要と認める事項

この覚書に基づき、現在は、次のような活動を行っている。

(1)児童生徒の学習指導

児童生徒を対象とした訪問教育や科学教室などの開催。

(2)教員研修

パソコン活用セミナー及び理科、数学、英語教員対象の教員研修

(3)教育研究

教科教育に関する共同研究

(4)連携教育・連携研究

個別の学校を対象とした連携教育・連携研究

昨年度の総括と検証²⁾の中で、現在の活動をマトリックスに整理したものが次の図である。対象別では、児童・生徒を対象とした領域ⅠとⅢ、教職員を対象とした領域ⅡとⅣに分けることができる。目的別でみると、教育・研修を目的とした領域ⅠとⅡ、共同研究を主とした領域ⅢとⅣに分けることができる。また、個別の学校との連携では、全ての領域にわたる活動が行われており領域に分けることはできないため領域Ⅴとしている。

昨年度、本学の地域教育支援の活動を広く周知す

	教育・研修	研究
児童・生徒	Bluebird訪問教育 おもしろ科学教室 大学見学 領域Ⅰ	高校生課題研究発表会 領域Ⅲ
教職員	領域Ⅱ パソコン活用セミナー 理科、数学、英語教員研修	領域Ⅳ エネルギー科学教育研究会 教員研修モデルカリキュラム
個別の学校との連携教育・連携研究 領域Ⅴ		

るためホームページを公開した。以下のURLを参照願いたい。

<http://www.kochi-tech.ac.jp/res/>

2. 2011年度の地域連携教育

2.1 児童生徒の学習指導

①Bluebird訪問教育

Bluebird訪問教育は、最先端の科学技術に触れることで児童・生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着と学力の向上を図ることを目的として実施している。本学教員が、県内の中学校、高等学校を訪問し、大学レベルの講義や演習を行っている（資料1）。また、教員の指導力向上のための校内研修への講師派遣も同時に行っている。高知県教育委員会事務局高等学校課を窓口となって募集を行い、本学で日程調整を行う。

受講した児童生徒からの評価は概ね良好であるが、過去3年間の実績を見てみると訪問回数が徐々に減少していることが分かる。学校現場の多忙化が顕著になっていることや、学力の定着が重要な課題となる中、通常のカリキュラムの実施が重視され、訪問教育を受け入れる余裕が生まれにくいという要因などが考えられる。一方、大学側としても検討すべき課題がある。一つには、公立大学法人化後の訪問教育に対する意識に変化がある。訪問教育は、開学当初から実施していることもあり、形骸化を招かないためにも、訪問教育のPRや新しい魅力的なテーマの発掘が今後の重要な課題となろう。

年度	講座テーマ数	教員数	訪問回数
2009	80	28	54
2010	78	26	52
2011	67	26	43

②おもしろ科学教室

小学生を対象とした科学教室である。これまで、いの町教育委員会および佐岡お父ちゃん会からの依頼で毎年実施してきたが、本年度は依頼が増加している。児童生徒の理科離れが懸念される中²⁾、初等教育の段階で、科学の面白さに触れさせる機会を増やす必要があるのではないかと。本学が果たしうる重要な役割である。

日付	学校・団体	内容	担当教員
5月7日	電子情報通信学会	小・中学生の科学教室 「親子で学ぼう！通信の未来と安心安全」	福本 昌弘
8月2日	春野総合運動公園	Xジャイロ制作 紙ロケット制作	星野 孝総 高崎 敬雄 山崎 和雄
8月20日	香美市立図書館	エネルギー学習	八田研究室
8月22日	いの町	紙ロケット制作	高崎 敬雄 山崎 和雄
8月23日	朝倉小学校 児童クラブ	ホンモノを探せ！ 万華鏡の見え方の不思議！？	野中 弘二
11月22日	舟入小学校	自転車人力発電体験 宇宙へどうやって行くの？ ロケットの仕組みを理解しよう！ ホンモノを探せ！ 万華鏡の見え方の不思議！？	八田研究室 スペースラボ 野中 弘二

③大学見学

高校生を対象とした、進路指導の一貫としての大学訪問は、入試部が別途受け入れを行っている。地域教育支援の取組としては、大学のキャンパスや施設を見学し、大学の研究の一端を経験することで、児童生徒の興味関心を高めることをねらいとした取組を行っている。本学の美しいキャンパスを楽しみ、最先端の科学技術を体験してほしい。キャンパス見学のプログラムの充実も課題となろう。

日付	学校・団体	内容	参加者数
6月29日	片地小学校	知能ロボティクス研究室	19
7月14日	青島グラント高校	留学生によるプレゼン、知能ロボティクス研究室	22
8月18日	馬路村社会福祉協議会	エネルギー学習、ロボティクス研究室	10
9月30日	高知市教育研究所	高崎先生による紙ロケット制作	25
10月7日	須崎市立南小学校	エネルギー学習、知能ロボティクス研究室	22
10月14日	十津小学校	知能ロボティクス研究室、堀井研究室	54
10月14日	宇佐小学校	綿森先生による体験学習	32
10月27日	高知中学高等学校	地域連携棟、知能ロボティクス研究室、ナノ創製センター 甲斐先生によるミニ講義	130
11月11日	須崎小学校	知能ロボティクス研究室、エネルギー学習	51
3月2日	多ノ郷小学校	エネルギー学習、ロボティクス研究室	72
3月13日	県立安芸中学校	末包先生による授業	61

④高等学校産業教育生徒研究発表会

本学を会場として、高等学校産業教育生徒研究発表会（高知県教育委員会主催）を開催している。これは、産業教育関係学会に学ぶ高校生の「課題研究」等の研究成果の発表会である。県内の児童・生徒の自主的な調査研究を奨励するために、高知工科大学長賞を設けている。また、高校生優れた取組を広く普及することを目的として学長賞授賞研究を、本学紀要に掲載することとしている。本年度は、行政や地域のミッションに高校生が挑むという学習に取り組んでいる高知県立大方高等学校の「自律創造型地域課題解決学習～カツオタタキバーガーを全国に広めよう～」（同校2年池田名月、島田玲奈、山沖静奈）が学長賞を受賞した（資料2・3）。

日付	内容	担当教員
1月12日	高校生産業教育研究発表	長崎政浩

2.2 教員研修

①パソコン活用セミナー

高知県教育センターの研修講座の一つとして、本学の施設を利用して実施している。本年度は、プレゼンテーション・ソフトと表計算ソフトウェアを取り上げ、それぞれの学校教育場面での活用スキルを身につけるための講座とした。例年、受講者からは好評であるが、講座の内容がパソコン入門レベルのものであり、大学との連携講座として相応しいかどうかについては議論が続いてきた。大学の研究成果を生かすことのできる講座を実施するには、どのような実施形態にすべきか、引き続き検討課題となっている。

来年度からは、本学教員の指導のもと、大学院生が講師となり、教職課程を履修している学部生がサポート役として関わる形態で実施する予定である。本学の学生の成長にとって貴重な機会となることが期待される。また、新しい試みが、受講者にどのような形で受け入れられるか、検証を行う必要があると考えている。

日付	内容	担当教員	参加者数
8月19日	プレゼンテーションソフト活用講座	橘 昌良	39
8月25日	表計算ソフト活用講座：表の作り方コース	綿森道夫	29
8月26日	表計算ソフト活用講座：データ処理とグラフコース	綿森道夫	26

②理科・数学・英語教員研修

理科、数学の教員研修は、外部からの依頼を受け

て、研究大会での講演を行った。県内の教員の研究団体との良好な関係が築けており、今後のより一層の連携を期待したい。

英語は、ここ2年間中高の教員との授業研究プロジェクト（幹&Apple Project）を継続してきており、そのプロジェクトの公開セミナーとして英語教員ワークショップを実施した。いずれも北原延晃氏（港区立赤坂中学校教諭）を講師として招いている（2度の開催となっているのは、東日本大震災翌日に予定されていたワークショップが延期となったため）。

日付	内容	担当教員	参加者数
4月3日	英語部会（英語教員公開ワークショップ）	長崎 政浩	26
8月3日	理科部会（香南市教育研究会）	姜 銀来	32
11月26日	数学部会（高知県高等学校数学教育研究大会）	河野 芳文	30
2月4日	数学部会（高知県高等学校数学教育研究大会）	河野 芳文	27
3月24日	英語部会（英語教員公開ワークショップ）	長崎 政浩	26

2.3 教育研究

教科教育に関する共同研究である。

①エネルギー科学教育研究会の活動

エネルギーと地球環境の課題を正しく理解し、解決する能力を身につけさせるため、八田教授が中心となり、平成14年度より高知工科大学エネルギー環境教育研究会を設立し、エネルギー環境学習の普及に取り組んでいる。現在、NPO設立に向けて、取り組みを進めている。

②教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

独立行政法人教員研修センターの委託事業として、実施した高知県教育センターとの共同研究である。内容は、高知県の「中学校英語授業改善プロジェクト」（高知県教育センター主催）の研修プログラムづくりである。研修プログラム名は「自律型共同研究による英語教員研修の実施とOJTによるメンターの育成」。本年度は、受講者の実践研究支援のためのメンタリングの手法の研究が中心となった。

2.4 連携教育・連携研究

個別の学校との継続的な連携教育・連携研究として、実施したものである。文部科学省の研究指定によるもの、訪問教育や大学訪問に近いもの、具体的

高校名	内容
高知南	国際教養科の生徒を対象とした連携教育。英語プレゼンテーション能力の向上を目指した授業実践を、同校教諭と共同で研究した。
山田	文部科学省の「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」事業の研究指定校として、理科（工学部）、英語（共通教育）「商業（マネジメント学部）で、共同研究を実施。理科では、実験を主体した授業の実施、英語では新しい授業カリキュラムの共同開発、商業では「高い甲子園」参加に向けてのワークショップなどを実施した。
安芸桜ヶ丘	「SKEセミナー」の呼称で毎年実施している。高校生が本学を訪れ、大学研究室の一日体験実習を行った。
高知小津	文部科学省「スーパー・サイエンス・ハイ・スクール」の研究に対する支援。同校の開設講座の実施と高高度発光現象スプライトの同時観測のためのSSHコンソーシアムへの支援を実施した。

なテーマを設定して共同研究を進めているものなど、様々な形態がある。この分野では、大学と学校の協働が進み、連携が深まりつつあるようだ。

3. 検証と総括

2009年度に、大学と学校の担当者が集まってワークショップを実施し、連携教育の在り方について検討した³⁾。そこでは、これまでの連携教育の課題として、(1)連携教育の目的や在り方が不明確であること(2)継続性、連続性のない単発の連携に陥ってしまいがちであること(3)生徒の現状を踏まえた到達点の共有と指導の接続があることなどが課題として挙げられ、次の5項目について、改善を図る必要があるとの提言がなされている。

- (1)意義、ビジョンの共有
- (2)担当者間の十分なコミュニケーション
- (3)大学と学校の明確な役割分担
- (4)継続性、連続性のある取り組み

(5)評価、検証の実施

この提言を踏まえて、今年の活動を領域ごとに振り返っておこう。

領域Ⅰ（児童生徒の教育）は、主に1回限りの活動が多く、継続性、連続性のある取り組みは難しい。しかし、Bluebird訪問教育では、大学側と学校側の担当者が、事前に打ち合わせを行うなどの体制が整い、意義やビジョンの共有は少しずつ図れてきているようである。

領域Ⅱ（教職員の教育・研修）においては、継続的に実施するなかで、評価・検証のサイクルが徐々に確立しつつある。パソコン活用セミナーにおける、本学修士課程の学生や教職課程履修者が指導者を務める新しい取組みの成果に注目したい。各教科における教員研修も、現職教員の研究部会との連携が確立されつつあり、教職員のニーズを見極めながら、本学にしかならない教員研修の実施方法を探っていきたい。

領域Ⅲ（児童生徒の研究）は、生徒の研究活動への支援が課題として残されている。高等学校産業教育生徒研究発表会では、本学学生がTAとして運営に関わるなど、発表会の開催自体は定着してきている。しかし、高校生の課題研究自体への関与は今までとできていない。教職課程履修者のインターンシップの機会としても格好の場面であり、今後の関わり方を研究していく必要がある。

領域Ⅳ（教職員の研究）は、具体的かつ明確な目的があり、それらが共有されている。ここでの成果を普及し、教職員の自己成長に役立てていく方策を検討する必要がある。

領域Ⅴ（複合的活動）は、2010年度から、すでに大学と地域の学校教育との協働による取組が徐々に生まれてきており²⁾、5項目の提言がもっとも実現されている領域である。本年度の山田高校での「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」において、その傾向が顕著に見られた。特に、大学と学校の明確な役割分担ができ、双方の強みを生かしつつ、継続性、連続性のある教育実践ができたと思われる。

おわりに

大学と地域教育の連携には、確立されたモデルは存在しないと言われている⁴⁾。積極的な相互交流・協働により、双方の生徒・学生そして、教員にとって意義のある連携の在り方を、探究し続けることが求められると言える。本学の地域教育支援の実施主体は、来年度から地域教育支援センターとして独立

することが決まっている。これを機会に、これまでの取り組みの包括的な検証を行い、従来の取り組みの改善とともに、新しい方向性を模索していきたいと考えている。

資料1 2011年度 Bluebird訪問教育一覧

日付	学校	内容	担当教員	参加者数
7月12日	山田高等学校	原子力と放射線	八田章光	30
7月12日	山田高等学校	くすりの話	西脇永敏	30
7月13日	山田高等学校	放射線の正体とその応用	百田佐多生	31
7月13日	山田高等学校	不思議な超伝導現象：ゼロ抵抗と反磁性	前田敏彦	30
7月13日	高知丸の内高等学校	ブランドの不思議－ブランドの価値を考えよう	末包厚喜	14
7月14日	中土佐町立大野見中学校	不思議な超伝導現象：ゼロ抵抗と反磁性	前田敏彦	12
8月8日	大方高等学校	英語科授業研究ワークショップ	長崎政浩	6
9月1日	高知丸の内高等学校	大学でマネジメントを学びませんか？	桂信太郎	40
9月12日	岡豊高等学校	くすりの話	西脇永敏	2クラス
9月12日	高知工業高等学校	確率・統計の歴史	井上昌昭	30
9月22日	四万十市立八束中学校	どんな選手が強くなるか 目標達成のための努力方法	浜田美穂	38
9月26日	高知工業高等学校	非接触で浮上させる（磁気浮上技術）	岡宏一	30
9月29日	高知丸の内高等学校	微分積分学の応用例	井上昌昭	8
10月3日	高知工業高等学校	モンゴルでの現地調査を通して環境問題を考える	高木方隆	30
10月13日	土佐町立土佐町中学校	大学でマネジメントを学びませんか？	桂信太郎	31
10月21日	宿毛市橋上中学校	天然ダイヤモンドと人工ダイヤモンド	八田章光	10
10月25日	香美市立大栃中学校	大学でマネジメントを学びませんか？	桂信太郎	41
10月27日	四万十市立西土佐中学校	モデルロケット打ち上げ	高崎敬雄 山崎和雄	26
10月28日	安芸高等学校	モンゴルでの現地調査を通して環境問題を考える	高木方隆	4クラス
10月28日	安芸高等学校	高校生に贈る近未来への指針－日本は、世界は、どこを目指しているのか－	山本真行	4クラス
10月28日	安芸高等学校	技術革新は市場を開拓する	松元信也	4クラス
10月28日	安芸高等学校	不思議な水－超臨界水－を用いる環境新技術	小廣和哉	4クラス
10月28日	安芸高等学校	電気信号に乗せて行き交う「ことば」～電子メールのしくみ～	植田和憲	4クラス
11月2日	高知西高等学校	放射線の正体とその応用	百田佐田夫	80
11月2日	高知西高等学校	ナノの世界	新田紀子	80
11月7日	本山町立嶺北中学校	天然ダイヤモンドと人工ダイヤモンド	八田章光	20
11月7日	高知工業高等学校	音の世界を知ろう！	山本真行	30
11月8日	高知東高等学校	高校生のための英語プレゼンテーション入門	長崎政浩	11
11月11日	高知西高等学校	糖の甘さの違いがわかりますか？	松元信也	80
11月11日	高知西高等学校	宇宙技術で地球を計る	高木方隆	80
11月14日	高知市立高知商業高等学校	原子力と放射線	八田章光	33
11月16日	室戸高等学校	糖の甘さの違いがわかりますか？	松元信也	27
11月25日	高知市立高知商業高等学校	大学でマネジメントを学びませんか？	桂信太郎	35
12月15日	高知江の口養護学校	電気信号に乗せて行き交う「ことば」～電子メールのしくみ～	植田和憲	8
12月15日	高知江の口養護学校	天然ダイヤモンドと人工ダイヤモンド	八田章光	8
12月16日	高知工業高等学校	技術革新は市場を開拓する	松元信也	40
12月16日	高知江の口養護学校	仕事って何だろう？	高木方隆	25
12月16日	高知江の口養護学校	くすりの話	西脇永敏	25
12月19日	四万十町立昭和中学校	放射線の正体とその応用	百田佐多生	23
12月20日	高知工業高等学校	仕事って何だろう？	高木方隆	37
12月20日	高知工業高等学校	宇宙技術で地球を測る	高木方隆	41
1月24日	土佐町立土佐町中学校	エネルギーと地球環境	八田章光	31
2月2日	高知工業高等学校	電気信号に乗せて行き交う「ことば」～電子メールのしくみ～	植田和憲	40

自律創造型地域課題解決学習 ～カツオタタキバーガーを全国に広めよう～

池田名月 島田玲奈 山沖静奈

高知県立大方高等学校
789-1931 高知県幡多郡黒潮町入野5507

E-mail:ogata-h@kochinet.ed.jp

要約：地域のミッション（課題）に高校生が取り組む自律創造型地域課題学習において、先輩が開発したカツオタタキバーガーの普及活動に取り組み、県内外でのPR活動に取り組み、大きな成果を得ることができた。

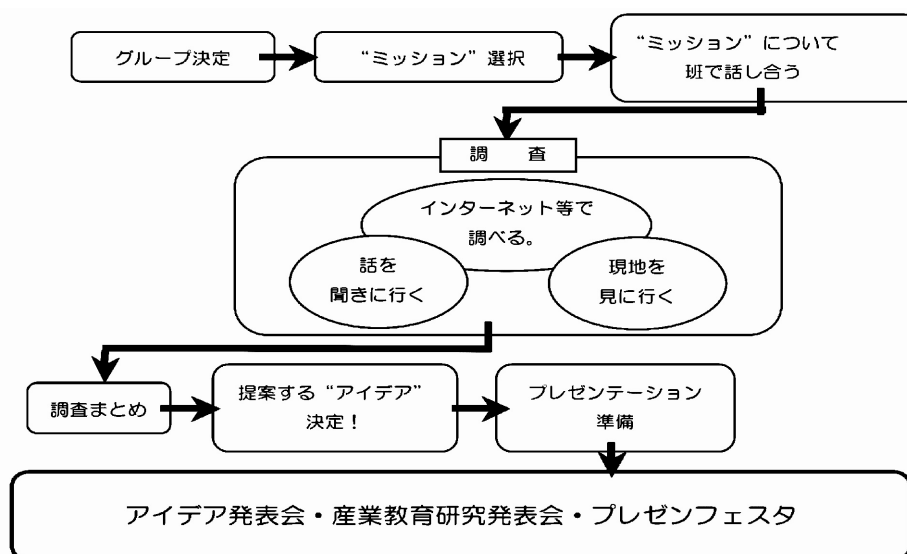
1 自律創造型地域課題解決学習とは

高知県立大方高等学校では、創立以来7年間、自律創造型地域課題解決学習に取り組んでいる。この学習は、行政や地域からミッション（課題）をもらい、自分たちで考え取り組むことによって生きる力を身に付けることを目的とする。現在まで様々なミッションに取り組み問題を解決したり、商品を企画するなど、地域のコミュニティの一員として一定の成果を出している。

◇学習のねらい

- (1) 地域を知る。
- (2) 地域課題解決に向けて、解決のためのアイデアを構想し、まとめることで、課題探究力・発想能力・論理的思考力を身につける。
- (3) 地域社会と実践的に関わることで、基礎的なコミュニケーション能力を身につける。
- (4) 多くの人の前で意見を発表することで、基礎的なプレゼンテーション能力を養成する。
- (5) チームで課題を共有し、作業を行うことで、チームワークを身につける。

図 授業の流れ（5月中旬から1月中旬まで）





◇過去のミッション一覧

- ・幡多の郷土料理を考える・ファイティングドッグスの公式戦を盛り上げよう・流木でなにかを作ろう・海の家を作ろう・黒潮町で社長になろう・黒潮町のおみやげを作ろう・どくだみ生産日本一
- ・オリジナルジーンズを作ろう・黒潮町のウォーキングマップ作り・ホエールウォッチングPR・ニタリクジラグッズを作ろう・浴用塩の商品化・楮復活PR・七立栗を広めよう など

2 本年度のミッション（カツオタタキバーガーを全国に広めよう）への取り組み

平成21年の先輩たちが考案したカツオタタキバーガーは、鰹節パンに生の魚を挟んでいることが評価されテレビ・雑誌などの各メディアで取り上げられる等、現在では黒潮町の目玉商品となっている。今年度のミッションはこのバーガーを広めるためにどうするかという課題が提案された。

(1) 調査・計画

実際に商品の試食を行い、商品についての魅力を知った後、地元のイベント「道の駅ビオスおおがた創業祭」にて、販売実習を行なう。実際にたくさんの方に食べてもらい、生の感想や評価を聞いた。結果は大好評。販売開始わずか2時間で完売した。商品としての魅力と知名度を確認することができた。

今後、カツオタタキバーガーで黒潮町を有名にするためにも宣伝活動の必要性を感じ、東京は銀座のアンテナショップで販売活動・PR活動を行うことを計画した。



(2) アンテナショップ使用許可・旅費の補助について

自分たちで調べた結果、東京に行くためには35万円もの旅費が発生することが判明した。黒潮町に相談したところ、バーガーの認知度が上がれば黒潮町のPRにもなるということから、協議の結果、町が旅費を全額負担してくれることとなった。後日、活動が認められ、黒潮町ふるさとキャラバン隊（観光PR大使）に任命され、町を代表して、カツオタタキバーガーや黒潮町をPRすることが決定した。

またアンテナショップ使用については、高知県知事や県地産外商課への問い合わせを行った。生徒たちが自分たちのしたいことや県全体への経済効果に関する説明を行い、何度も相談を繰り返した結果、試食配布・特産品PRでのアンテナショップ使用許可をもらうことができた。



(3) アンテナショップPR活動

10月2・3日の2日間実際にアンテナショップ「まると高知」（東京・銀座）で試食配布を行った。品目はバーガーだけでなく、きびなごフィレや天日塩、黒糖商品、だし醤油、塩アイスなど、黒潮町を代表する商品の試食及び広報活動を行った。2日間でのべ3000人以上の方に試食や商品紹介、町の観光案内を行うことができた。またテレビや雑誌に取り上げられる等、大きな成果を出すことができた。



(4) 広報活動（メディア・新聞・雑誌への掲載）

昨年度までNHKローカル列車の旅やキズナ食堂で放送されている。本年度も販売や研究の間の時間を使い、各種旅行雑誌やリーフレットへの掲載・テレビ番組への呼びかけを行った。

現在、雑誌やリーフレット・新聞への掲載が20件以上、またテレビ番組・ニュース等で6回以上紹介を行ってもらっている。テレビ番組放送後の売上集計や雑誌への掲載効果も分析・研究を行っている。



(5) 研究発表

活動時の写真や活動を通じて得た経験を生かしてプレゼンテーションを製作した。ただの説明にならないよう自分たちの想いや一緒に協力してくれた方達の想いが聞いてくれる人に伝わるように何度も作



り直し、工夫し、練習を重ねた。結果として、発表内容をしっかりと理解し、気持ちをこめて「伝えること」を中心に発表できた。



3 来年度の取り組み

来年度も県や町・企業と連携した活動を行いたい。県内全域での販売活動・広報活動継続的に行い黒潮町のPRを行うとともに、たくさんの人と繋がり、そして互いに協力・成長できるような取り組みを行いたい。また後輩の生徒たちを巻き込み、今後に引き継ぐとともに東日本大震災で被害を受けた気仙沼への支援活動や全国かつおフォーラムへの参加、体験発表においては全国・四国商業研究意見体験発表会への出場を視野に入れた活動を行いたい。

資料3 2011年度 高知県産業教育高校生研究発表大会 研究発表一覧

テーマ	学校	賞
大山岬浜千鳥公園 ～平面図作成・東屋基礎工事～	安芸桜ヶ丘高校 環境建設科 土木専攻	
野草は人類を救う ～スギナでcookingⅡ～	幡多農業高校 生活コーディネート科	
We are 山田高校商業科	山田高校 商業科	
ソーラーボートの製作	須崎工業高校 造船部	入交太兵衛記念賞(工業の部)
シイタケ収量増収に向けて	高知農業高校 森林総合科特用林産物班	入交太兵衛記念賞(農業の部)
子宮頸がん予防に関する高校生の意識調査 ～高校生の立場で予防啓発について考える～	高知東高校 看護科3年	入交太兵衛記念賞(看護の部)
南海地震に備える ～津波からの退路～	高知東工業高校 自動車工作部	
自律創造型地域課題解決学習 ～カツオタタキバーガーを全国に広めよう!～	大方高校 かつおガールズ	高知工科大学長賞
大山岬あずまや製作 Project	高知工業高校 建築科	
巨大地震に備えて ～今、私たちにできること～	幡多農業高校 グリーン環境科	
ウルメプロジェクト3	高知海洋高校 食品科学部	入交太兵衛記念賞(水産の部)
エコのバトンつなげよう	伊野商業高校 チームOLi, OLi	
商業高校の力!	高知工業高校 建築科	入交太兵衛記念賞(商業の部)
しょうがで地域をホットに! ～ジンジャークラブの活動報告～	高知農業高校 ジンジャークラブ	入交太兵衛記念賞(家庭の部)
建築設計競技への取り組み	宿毛工業高校 建設科建築専攻	

文献

- 1)西本敏彦, Paul Daniels, 「Blue Bird 小中高校
大学連携情報化教育の実践的研究」, 『高知工
科大学紀要』 Vol.2, No.1, pp.223-226, March
2005 他
- 2)長崎政浩「高知工科大学と地域教育の連携：2010
検証と総括」『高知工科大学紀要』第8巻第1号
2011年6月.
- 3)長崎政浩「大学と地域教育の連携に関する一考察—
学校教育と大学の新しい協働の構築に向けて」『高
知工科大学紀要』第7巻第1号2010年7月.
- 4)文部科学省科学技術政策研究所「科学技術に関す
る意識調査」2002年1月.
- 5)中條安芸子「共同運営型の高大連携システムづく
りに関する一考察」2008文京大学情報学部『情報
研究』第39号.

Collaboration between Regional School Education and KUT: 2011 : Evaluation and Summary

Nagasaki Masahiro

(Received: May 7th, 2012)

Core Studies, Kochi University of Technology
185 Tosayamada Miyakuchi, Kami city, Kochi 782-8502, JAPAN

E-mail: nagasaki.masahiro@kochi-tech.ac.jp

Abstract: This paper reports and evaluates the educational research projects collaboratively implemented by regional primary and secondary schools and Kochi University of Technology in 2011. Collaboration between schools and KUT has been enhanced. However, further validation of all the projects are required in order to delineate the direction of our projects in the future.